

“子ども発信”が増えるICT活用で、 思考が深まる学習を切り拓く

— 雲雀丘学園小学校

目的

- Wi-Fi利用時に発生していた通信トラブルを解消したい
- 児童の思考を深める活動を実施したい
- 地域社会や保護者ともつながる場面を作りたい

アプローチ

- LTEモデルのタブレットを採用し、安定した通信環境を構築
- タブレットと授業支援ツールで、他者との考えを共有・比較するグループ学習の充実をはかる
- 写真や動画をリアルタイムに共有し、積極的に発信していく活動を実施

「つながらない!」というストレスを取り除き、教師が扱いやすいLTEを導入

兵庫県宝塚市にある雲雀丘学園小学校は、創立の精神である「孝道」を根本義とし、社会に役立つ人材の育成をめざしています。時代に即した“最高の学びの環境づくり”を重視するとともに、基礎学力の向上をはかる「ひばりタイム」や自然の大切さを学ぶ「花育」など多数の独自プログラムを実践しています。

ICT教育もそのひとつです。雲雀丘学園小学校では新学習指導要領が重視する情報活用能力の育成と深い学びの実現をめざして、2012年度からICT環境整備に着手しました。ところが、当初導入したWi-Fi環境では、つながらないなどのトラブルが多く発生し、また原因特定や復旧に時間がかかることから、LTEモデルの導入を検討しはじめたといいます。

アクシデントが発生しても、ドコモのサポート体制ならあんしん



同校でICT教育主担を務める森岡俊勝教諭は「トラブルが発生したときに、教師が授業を抱えながら対応するのはむずかしいです。過去にも復旧までに3週間を要したケースがあり、児童と教師が安定して使える環境を築くことが重要だと考えました」と語っています。そこで、2018年度から4年生で実施した一人1台については、LTEタブレットを採用しました。LTEならICTの専門家ではない教師も扱いやすいと判断したというのです。

また一方で、小学生がタブレットを自宅へ持ち帰るとなると、紛失や破損などのアクシデントが心配です。これについて森岡教諭は「代替タブレットがすぐに届くドコモのサポート体制にあんしんしました。困ったときに助けてくれる人がいるのは心強いですね」と話してくれました。



森岡 俊勝 教諭



雲雀丘学園小学校

兵庫県宝塚市雲雀丘4-2-1

URL : <https://hibari-els.ed.jp/>

雲雀丘学園小学校は、2018年度から4年生全員を対象に一人1台を実施し、LTEタブレットを導入しました。情報活用能力の育成をめざしてICT教育に力を入れる同校では、安定した通信環境が必須であるとの考えからLTEを採用。「主体的・対話的で深い学び」の授業をめざして、ICTのメリットを活かした学習が実践されています。



一人1台のタブレットを活かして、思考を深める学習を充実

雲雀丘学園小学校では主に、モジュール学習と授業でタブレットを活用しています。モジュール学習では、一人1台を活かして児童の習熟度に合わせた問題が提示されるアダプティブ・ラーニングの学習ドリルを使用。学力の向上・定着にタブレットが活かされています。

授業では、主体的・対話的で深い学びをめざし、授業支援ツールがメインで使用されていました。松田純子教諭が受け持つ社会の授業では、児童全員が授業支援ツール上のカードに意見や考えを書き込み、それを瞬時に共有してグループで比較します。児童たちは話し合いながら、同じ考えのカードに分類し、タイトルをつけて整理しました。松田教諭は「全員の答えを一瞬で手元に集約し、共有できるのがICTのメリットです。今まではホワイトボードや紙を使っていましたが、手間も時間もかかりました。今はとてもスムーズに進められるので、思考を深める活動に力を入れています」と語っています。



自発的な学習により、社会とつながる場面が増えた

また授業以外でもタブレットは大活躍です。異なる地域に住む雲雀丘学園小学校の児童たちですが、水道について学習する単元では、自分たちの街のマンホールを写真に撮って、その違いや共通部分を確認しあい、防災について学習する単元では、家庭の防災備蓄品を写真に撮って、持ち寄り、比較するなかから共通理解を得たり、消防署の社会見学にもタブレットを持参し学習に役立ちました。このように子どもたちが自分から進んで学習に取り組み、社会とつながる場面も増えてきたといいます。さらに、運動会やスキー遠足等の学校行事の様子を、保護者にリアルタイムに配信するという取り組みも実施しています。



松田 純子 教諭

“与えられてきた環境”から、“進んで学ぶ環境”へ

タブレットを活用した学習のメリットについては、児童からも同様の意見が聞かれました。「みんなの意見を知ることができる」「意見がいいづらい人もタブレットに書いて提出できる」「授業中に待つ時間が減った」「写真を使えるのがよい」など、児童たちは好意的に受け止めています。また、ある児童からは「自分から進んで勉強できるようになった」「自信を持てるようになった」「みんなの前で発表する力がついた」という意見も聞かれ、主体的な学習や自己肯定感にもつながっている様子が見られました。

松田教諭は「今までは常に与えられてきた環境でしたが、タブレットでは自分から進んで学ぶ環境を築けると考えています。話すのが苦手な児童が写真一枚で発表できるようになったり、日常の気づいたことを授業支援ツールの提出箱に入れてくれたりと、子どもからの発信が増えていると感じています」と語っています。



変わったのは児童ではなく教師、求められる授業デザインの見直し

一方で森岡教諭は「変わったのは児童ではなくて、教師の方ではないかと思います。一人1台あることで、授業デザインの見直しが求められ、教師たちは今までの考えを変えて授業に向き合うようになりました」と話してくれました。子どもたちがどんどんタブレットを使いこなすなかで、授業では学ぶべきことは何か、新たな問いに挑んでいるようです。

現在は、学習者用デジタル教科書も整備し、ICTの活用範囲をさらに広げている雲雀丘学園小学校。児童たちに最高の学びを届けるため、これからもICT教育を追求していきます。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター（☎0120-808-539）
受付時間 平日午前9時～午後6時（土・日・祝日・年末年始を除く）

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを!

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/



※本チラシの内容は2019年1月取材時点のものです。